



## 研究員 群像 20

情報技術研究センター 主任研究員

飯尾 淳

# 新しい技術開発への 挑戦

【世の中の社会的意義を見据える】

「世の中が必要としているものを常に探せ」とは、発明王トーマス・エジソンの言葉であるが、シンクタンカーにも同様のことがいえるだろう。情報技術研究センター 主任研究員 飯尾 淳は、めまぐるしく変化する情報技術分野で、「こんなものがあったら便利に違いない」という強い気概を持ち、技術革新に情熱を傾け続ける。

### 先端技術を見出しながら 先進性の高いソリューションを提供

飯尾はシンクタンカーであると同時に、IT分野の先端技術を見出す発明家でもある。

現在の飯尾の業務は主に2つある。1つは、先進的な情報技術を活用してお客様にソリューションを提供すること。たとえばメーカーの研究所などから持ち込まれる研究課題に対して、既存にはない

コンポーネントを新たに開発して解決を図る。先端技術を見出しながら先進性の高いソリューションを提供しており、いわゆる世間一般にある、業務支援システムのソリューションとは異なる。

もう1つが、オープンソースソフトウェアの活用である。日本のソフトウェア産業を盛り上げていこうという国の政策のもと、その支援業務を広く担う。オープンソースソフトウェアには、著作権やライセンス、ソリューションへの展開、およびサポートビジネス、教育、システム構築など、さまざまなビジネスチャンスがあるが、これらを国内外に普及させている。

飯尾は、オープンソースソフトウェアについて、「オープンソースソフトウェアは科学と同じで、旧人の肩の上に成り立っています。科学は、過去の研究論文の上に新たな発明が積み上げられていますが、オープンソースソフトウェアの世界も、これまでのソフトウェアのソースを参照、利用することで、さらに新しいアイデアが加えられ、新たなソフトウェアが作られていく。このような発展が理想です」と語る。

### 「世の中のためになる」 社会的意義へのこだわり

飯尾にとって、新しいことへのチャレンジが、仕事に対する一番のモチベーションにつながる。したがって何らかの技術開発にはいつでも携わっていたいという。「新しい製品、新しい技術を開発するのはワクワクする」という飯尾。仕事イコール、面白いがモットーである。

これまで飯尾が発明した作品は多数あ

る。最近でこそやらなくなったが、会社の机の上には、テスターとハンダごてが置かれ、ひらめきとともにハンダごてを手にしていた時期もあったという。「三菱総研広しと言えども、自らハンダごてを振るう研究員はいないのではないかと、自身を語る。ただ、その一方で、開発に懸ける思いの中には「世の中のためになる」といった社会的意義の部分に強いこだわりを持っている。

今まで手掛けた作品の中での評判を聞くと、「レーザーポインタ型3次元マウス」は評判がよかったとのこと。現状のマウスで3次元空間の動きを実現しようとしても、直感的な操作性を提供することはなかなか難しい。そこで、レーザーポインタの先端に装着し光を特定のパターンで映し出すように変化させるアタッチメントを開発、その光のパターンをデジタルカメラで撮影、解析することで直感的に操作できる3次元マウスを実現した。仕組みは簡単で、パソコンとデジタルカメラをつなぎ、映したい位置、角度にレーザーポインタを動かすだけ。現状、3次元マウスはいくつか提案されているが、安価かつ簡単に実現した点で、評価が高かったという。近々、米国で開催される学会でも発表するとのことだ。

## インパクトを与える 新しい技術の開発を

私たちの今後10年、15年後の生活は、情報技術により、さらに変化を遂げていくのだろうか。

飯尾は、入社以来かかわってきた信号処理や動画画像解析に続く一連の活動として、実時間画像処理を応用したインター

フェイスの研究を続けている。その研究の延長でもあるが、ユーザーインターフェイスの観点から今後の私たちの生活にインパクトを与えるような新しい技術について語ってもらった。

「たとえばパソコンの操作が簡単になったとはいえ、まだまだデジタルデバイドはある。ITの恩恵を授けられない人々もいるし、極端なことを言ってしまうと若者は親指を使って携帯メールを打つことが当たり前だが、とても使い勝手がいいとは言えない。現在広く普及しているキーボードとマウスの組み合わせでさえ、これらが究極のインターフェイスではないと思います」。

飯尾は、もっと違うユニバーサルなインターフェイスがあると考えている。その形はまだ見えてこないが、「どのようなものが社会で必要とされているのか」という視点で、これからも新しい技術を追い求めてくれるに違いない。

### 専門分野

◎ 情報工学 情報システム技術

### 主なプロジェクト実績

- ◎ 「Open School Platform 調査研究・事業支援」((財)コンピュータ教育開発センター)
- ◎ 「東南アジア各国のOSS普及状況に関する調査」((財)国際情報化協力センター)
- ◎ 「アジアOSS開発者育成基盤構築事業」(経済産業省)
- ◎ 「アジア地域におけるOSS導入実証事業」(経済産業省)
- ◎ 「組み込みLinux向け動画処理基盤ソフトウェアの開発」((独)情報処理推進機構)
- ◎ 「動画画像からの実時間身体姿勢認識を用いた3次元UI技術の研究開発」((株)情報技術コンソーシアム)

### 講演・寄稿等

- 論文 ◎ 「レーザーポインタによる3次元情報入力装置の開発とそのユーザビリティ評価」(特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会 論文誌/2007.08.25)
- 講演 ◎ 「OSSのデスクトップ利用推進を阻む課題とは」(LinuxWorld Expo/Tokyo 2007 事務局 /2007.05.31)
- 書籍 ◎ 「リプレソフトウェアの利用と開発～IT技術者のためのオープンソース活用ガイド～」(ソフト・リサーチ・センター/2004.04)
- 書籍 ◎ 「Linuxによる画像処理プログラミング」(オーム社/2000.04)